

博士研究員（PD）の募集について

龍谷大学 古典籍・文化財デジタルアーカイブ研究センター（以下、DARC という）は、2001年4月、本学における文理融合・文理連携型の学際研究拠点として、古典籍デジタルアーカイブ研究センターという名称で設立され、2019年度より現名称となりました。

設立以来、本学の建学の精神に基づいて収集した古典籍や、20世紀初頭に「大谷探検隊」が中央アジアから持ち帰った資料などの文化財を研究対象としてきました。それらをデジタルアーカイブし、レプリカの作成やデジタル復元、ミュージアムでの公開手法の提示などに積極的に取り組んで参りました。

一方、インターネットを媒介とした文化財のデジタル公開についても、早くから成果を挙げ、特に国際連携において、大英図書館(British Library)の国際敦煌プロジェクト：International Dunhuang Project(現 Programme) (IDP)の唯一の日本支局として、2004年以来、「大谷探検隊」収集資料のデジタルアーカイブ化と公開に貢献してきました。また近年は、モンゴル・カラコルム博物館の石碑レプリカ作成にも協力しました。

2011年に開設された本学「龍谷ミュージアム」との連携も、DARCの研究成果を語る上で欠かせないものです。2階展示室に常設されたベゼクリク千佛洞復元壁画の作成や、2019年度の本学開設380周年記念企画展「龍谷の至宝ー時空を超えたメッセージ」の展示品の選定等、数多くのプロジェクトにおいてDARCは協働を重ね2021年度には、3F展示室のフロアにて研究成果展示会を開催し、2023年度には、特別展「真宗と聖徳太子」に協力をしました。このように、研究のための研究に留まらず、地域に開かれたミュージアムでの展示に直接かわり、社会へ貢献するという高等教育機関に与えられた重要な使命の一端を担って参りました。

2024年度からは、学際的研究プロジェクトに採択され、「文化財・学術資料のデジタルアーカイブによるデジタルヒューマニティーズと多面的公開の基盤形成」を研究課題として活動していきます。この新たな展開に対応すべく、デジタルヒューマニティーズにかかる研究に貢献できる方で、本学所蔵資料のデジタルアーカイブを基本として、IDPのパートナーであるイギリスやドイツ、フランス、中国等との国際連携をいっそう促進する意欲を持った、博士研究員（PD）を下記のとおり募集いたします。

記

1. 募集人員 博士研究員（PD）1名

2. 任 期 2024年6月1日～2025年3月31日

※2026年3月31日を期限として更新の可能性があります。ただし、PDに任用以前に本法人と契約する他の職種の雇用期間を含め連続して10年を超えることはできません。また、本学のPD（他の研究センターを含む）として

通算5年を超えることもできません。

3. 職務内容 主として DARC の研究者としての職務を分担し、IDP と連携しながら DARC の研究を推進する補助者として従事する。
職務には、シンポジウム・特別講座・特別講義などプロジェクト事業の運営、研究成果発信業務 (HP 管理含む)、年次報告書の作成、プロジェクトに関わる業務処理、外部資金等の申請業務などを含む。
4. 勤務地 龍谷大学 大宮学舎 白亜館 4 階
〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町 125 番地の 1
龍谷大学 瀬田学舎 瑞光館 古典籍・文化財デジタルアーカイブ研究センター
〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1-5
5. 応募資格 〈別添資料〉「博士研究員(PD)について(龍谷大学「博士研究員任用規程」抜粋)」 準拠。
(1) 博士学位を取得している方。ただし、人文・社会科学の分野については、大学院研究科博士後期課程に標準修業年限以上の在学後に退学し、博士学位を取得した方に相当する能力を有すると認められる方を含みます。
(2) 大学院においてデジタルヒューマニティーズ (人文情報学)、もしくはその関連分野を専攻していた方。
(3) 専門の研究テーマのみならず、国内外のデジタルアーカイブの利用実績や、世界に散在する古典籍・文化財のデジタル化のありようを広くカバーする視野を持ち、かつ高い実務・交渉能力を有する方。
(4) 日本語に加え、英語及び英語以外の外国語 (中国語等) に堪能であることが望ましい (TOEIC など語学検定試験の受験経験者は、そのスコアを明記してください)。
6. 待遇 勤務時間：月～金 9:00～17:00
休日：土曜日、日曜日・祝日、その他学校法人龍谷大学の定める日
給与月額：日本学術振興会特別研究員の当該年度研究奨励金に準じる。
※2023 年度実績：月額 362,000 円、交通費支給 (上限あり)、各種社会保険完備。
7. 応募期間 2024 (令和 6) 年 3 月 19 日(火)～4 月 19 日 (金)
8. 必要書類 次の必要書類の内、①～⑤は応募者本人が、⑥は推薦者が、それぞれ PDF 形式で 10. 提出先に記載の世界仏教文化研究センター事務部にメール添付で送付してください。なお、提出された書類データは返却いたしません。予めご了承ください。
①履歴書 (本学様式) ※写真添付のこと。画像でも可。
②研究業績書 (本学様式)
③各種スキルについての確認シート (本学様式)

※語学運用能力、画像処理関連（DTP、WEB サイト管理を含む）、職務に関する実務経験について客観的に記載してください。

④主要研究論文(1 篇) (任意様式)

⑤研究計画書 (1,500 字程度) (任意様式)

※研究のテーマ・目的・内容・方法を記載してください。

⑥推薦書 (任意様式)

※推薦者本人の方がメール添付 (PDF 形式) で提出してください。

9. 選考方法 DARC 運営委員会による一次審査 (書類) を行う。一次審査通過者には個別にメール等で連絡の上、二次審査 (面接) を実施する。面接はオンライン実施の可能性あり。

※面接は、2024 年 5 月 7 日(火)~10 日(金)の間での実施を予定

10. 提出先 龍谷大学 世界仏教文化研究センター事務部
メールアドレス：cswbc2@ad.ryukoku.ac.jp

11. 問合せ先 提出先に同じ

以 上

【参考】

○古典籍・文化財デジタルアーカイブ研究センター

1. 研究体制

DARC では、文化財・学術資料のデジタルアーカイブによるデジタルヒューマニティーズと多面的公開の基盤形成を研究していくために、2つの研究グループを設け、相互交流しながら研究活動を遂行します。

(1) グループ A 【コンテンツとデジタルヒューマニティーズ研究】

文学部・国際学部・農学部・先端理工学部に所属する7名の兼任研究員から構成される。文献・美術考古資料、および植物標本等を研究対象とし、仏教学・東洋史学・美術史学・文化人類学・博物館学・農学・民俗学等の学際連携により古典籍・文化財のコンテンツ研究をさらに促進するため、デジタルヒューマニティーズの観点から研究活動をおこなう

(2) グループ B 【デジタルアーカイブと多面的展観手法研究】

先端理工学部の8名の兼任研究員から構成される。実展示連携3D情報呈示、展観ガイドと学術資料公開情報サービスを研究主題とし、新たな展観手法を支えるVR、ARなどのメディア統合に基づく情報工学・メディア工学の新たな展開を軸として研究を進めていく。また、保存科学・材料科学・計測工学・人間工学・機械工学の応用範囲を文化財・学術資料に集約し研究を進める。

(3) 龍谷ミュージアムに所属する2名の兼任研究員は、グループの枠を越えて、全体計画と有機的にかかわり、各種コンテンツや多面的展示手法の具体的提示に協力する。

2. 沿革

- 2001年 古典籍デジタルアーカイブ研究センター 開設
- 2002年 文部科学省「私立大学学術研究高度化推進事業学術フロンティア推進事業」
- 2009年 文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」(2009～2014年度)
- 2015年 学内資金研究支援プロジェクト(2015～2016年度)
- 2017年 学内資金指定型研究プロジェクト(2017～2019年度)
「古典籍・文化財デジタルアーカイブ研究センター」と改称
- 2019年 重点強化型研究推進事業(2019～2021年度)
「古典籍・文化財デジタルアーカイブ研究センター」と改称
- 2022年 重点強化型研究推進事業第二期(2022～2023年度)
- 2024年 学際的研究プロジェクト(2024年度～2026年度)

以 上